

学校の教育目標: やさしく、かしこく、たくましく 夢の実現へ成長する子どもの育成

学校の教育目標 実現のための 喫緊の課題を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達像不要	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	担当	検証・改善				
					取組指標に対する 取組状況の確認		達成指標に対する 達成状況の確認		改善方策
					SAB 評価	取組状況(エビデンス)	SAB 評価	達成状況(エビデンス)	
豊かな心の育成 やさしく	○「進んで誰にでも気持ちのよい挨拶ができた」と答える1～9年生が90%以上にする。 ○「学校が楽しい」と答える1～9年生が90%以上にする。	○あいさつの徹底、規範意識を育成する。 ○「居場所」と「絆」づくりの取組を行う。 ○小中一貫教育の推進に努める。	○週に1回以上、児童生徒が行った挨拶や規範意識のある姿を紹介し、よさを話す。→継続 ○週に1回以上、児童生徒が行った優しい言葉かけや行動を紹介し、よさを話す。→継続 ○毎月の児童生徒会活動の、縦の繋がりを意識した取組を行う。→継続	生野・北崎	A	全学年、朝の会や帰りの会などを活用し100%実施できた。	A	○進んで誰にでも気持ちのよい挨拶ができた 1～9年生 92% 達成率92/90≒102% ○学校が楽しい 1～9年生 87% 達成率87/90≒97% 合計達成率102+97/2≒99%	○中期活性化…専門委員会を2部構成にし、7年生が5・6年生に指導・助言する場をつくる。前半は執行部から全体への目標、活動の提案を行う。後半は中期部会(5・6・7)と後期部会(8・9)に分かれ、各学年の振り返りや次の取組について、指導・助言を行う。各期で共通理解したことを、中期代表(7年)と後期代表(9年 3学期は8年)が発表し、全体の共通理解を行う。 ○前期は、2学期の取組を継続する。 ○挨拶の質(目を見る、頭を下げる、フンストップ)を高める指導を行う。「何となくできていない感」状態を脱する。 ○アンケートに否定的な回答をした児童の面談、行動観察、保護者との連絡などを通して、困りを解消していく。
					B	毎月の児童生徒会活動は77%実施できた。			
					A	学校評価票(保護者対象)の「子どもは、進んで気持ちのよい挨拶ができた」項目に肯定的評価は88%であった。			
確かな学力の育成 かしこく	○単元テスト(国、算、理)で1～6年生は、80点以上を75%以上、60点未満を5%以下にする。 定期テストで7～9年生は、60点以上を60%以上、40点未満を10%以下にする。 ○「授業が楽しい、よくわかった」と答える1～9年生が90%以上にする。	○新大分スタンダードを意識した授業を実施する。 ○小テスト等の実施により、学習の定着を図る。	○日常授業で、「振り返り」を活用する。位置づけ、時間を確保する。→変更 ○月に1回授業セルフチェックシートを活用する。→継続 ○単元に1回以上、その時間につけたい力に迫る「対話」を位置付けた授業を行う。→継続 ○7～9年では、小テストを単元に2回以上設定し、やり直しをいねいに行う。→継続 ○1～6年では、小テストを単元に1回以上設定し、やり直しをいねいに行う。→継続	平野・右田	A	「振り返り」の活用は97%、セルフチェックシートの活用は100%実施できた。	1～6年生 S 7～9年生 A	○単元テスト1～6年生 80点以上 80% 達成率 80/75≒106% 60点未満 4% 達成率 5/4 ≒125% 定期テスト7～9年生 60点以上 67% 達成率 67/60≒111% 40点未満 13% 達成率 10/13≒76% ○授業が楽しい、よくわかる 1～6年生90% 7～9年生84% 1～6達成率 90/90≒100% 7～9達成率 84/90≒93% 合計達成率 1～6年生 106+125+100/3≒110% 7～9年生 111+76+93/3≒93%	○取組指標の「振り返り」について変更するものの、「振り返り」の工夫と活用は、継続して行っていく。 ○3、4年生の算数については習熟度別学習の指導を充実させる。6年生の算数についても、単元末のまとめの時間を学年で調整して少人数学習や習熟度別学習の場面を設けるなどして学習形態を工夫し、一人一人の定着度を高める。5年生の算数については、中学校教員の乗り入れ授業を活用し個別の支援を充実させる。 ○各学年の児童生徒の実態に応じて、課題を克服するためのドリルや小テストに取り組む。 ○低学力の生徒に対して1対1の個別指導を行う。(特定の生徒に毎日ノート用のプリントや追試・模擬テスト等の実施、朝や昼休みに個別に対応するなど)
					A	対話活動は、100%実施できた。			
					A	7～9年では、100%実施 1～6年では、100%実施であった。			
					A	取組指標と同文の学校評価票(保護者対象)の項目に肯定的評価は86%であった。			
健やかな体の育成 たくましく	○「運動が好き」と答える1～4年生が90%以上、5～9年生が85%以上にする。 ○「早寝・早起きを意識して、規則正しい生活を心がけた」と答える1～9年生が85%以上にする。	○一校一実践による体カアップを図る。 ○生活習慣の改善と意識の高揚を図る。	○体育の授業で、「賀来っ子体操」を行う。更に、体力調査に基づいた補強運動や体づくり運動を週1回以上実施する。→継続 ○月1回以上、「スポーツチャレンジ」を実施する。→継続 ○体育の授業で授業時間の50%以上の運動量を確保する【新規】 ○目安となる就寝時間や良い就寝時間までの計画的な時間の使い方を示すなどして、毎日、早寝・早起きのことを話題にする。 ○月1回以上、通信(学年・学級・保健だより)等を活用して、保護者の啓発を行う。→継続	油布・江藤	A	全学年、体育授業で毎時間、「賀来っ子体操」と補強運動(からだづくり運動)を行った。100%実施できた。	A	○運動が好き 1～4年生 89% 達成率89/90≒99% 5～9年生 81% 達成率81/85≒95% ○早寝早起きを意識して、規則正しい生活を心がけた 1～9年生 81% 達成率81/85≒95% 合計達成率99+95+95/3≒96%	○「みんな遊び」を3学期から取り入れる。 ○縄跳びの跳んだ回数を記録させたり、級や段の設定をしたりする際、スモールステップで(ハードルを下げて)「できた」という達成感を味わわせる。 ○「運動が嫌い」と先入観をもっている児童生徒に「できた」を積み重ねていくように授業を行っていく。 ○早寝早起きを振り返る場やノート、カードを用いながら、児童生徒が早寝早起きに関して考える場面を設定して取り組んでいく。 ○期間を決めて9学年が生活習慣に関する記録をつける活動を通して、学年で設定している就寝時間を基準に指導することを引き続き行う。
					A	月1回以上、スポーツチャレンジを実施することは100%できた。			
					A	1～4年生は、ほぼ毎日、朝や帰りの会で話題にしている。5～9年生では、委員会や振り返りシートを活用しチェックを行っている。また7～9年生は毎日ノートの生活時間管理の中で、早寝早起きと合わせてコメントしている。			
					A	「学年・学級通信」や「保健だより」を活用し、児童生徒や保護者に対し睡眠(早寝・早起き)の重要性などを伝えることが出来た。また2学期末懇談会で「生活習慣」について意見交換した。			